



一般社団法人 大日本武徳会

会報 **武徳**

2014.4 春季号



平安千古の鎮



## 敬弔

一般社団法人 大日本武徳会  
総裁 東伏見慈洽猯下  
ご逝去

平成26年1月1日午前4時25分

武徳会・理事・会員一同謹んで哀悼の意を捧げ  
心からご冥福をお祈り申し上げます  
総裁の理念【襲古還新】を念頭に  
一層の努力を積み重ねることをお誓い致します  
【暉光日新】

代表理事 桑原 兵充

祭壇の尊影は・天皇・皇后両陛下の供花  
皇族宮様・はじめ多くの方々の供花に包まれ  
ご親族・僧籍・武徳会・縁戚の方々  
参列厳粛しめやかに執り行われました  
通夜密葬儀・1月5日通夜・1月6日密葬





一般社団法人 大日本武徳会  
総裁 東伏見慈洽猯下

平成 26 年 1 月 1 日水曜午前 4 時 25 分  
天寿を全うされ 103 才でご逝去されました  
謹んで哀悼の意を捧げご冥福をお祈り申し上げます

仏様のご帰宅を確認いたしまして  
1 月 3 日金曜正午・青蓮院門跡を弔問致しました  
東伏見慈晃副総裁のお出迎えを受け・総裁安置室にご案内頂きました  
大日本武徳会から・清楚な枕花がお供えされていまして

お許しを戴いて仏様を拝顔させて頂きました  
安か輝く様なご尊顔・今にもお言葉が戴けるのではと思われました  
永年にわたるご薫陶を心から謝し・仏様にお香を手向け礼拝  
檜の葉にお水を頂きお口元に差し上げましてご冥福をお祈り致しました

改まりまして  
青蓮院門跡 御門主  
大日本武徳会 副総裁 東伏見慈晃猯下に  
大日本武徳会・理事・会員を代表致しまして  
謹んで弔意を申し上げます

通夜：1 月 5 日日曜 18 時・参列者 600 余名  
密葬：1 月 6 日月曜 正午・参列者 600 余名

法名 尊融徳心院 望擬講大僧正 慈洽大和尚

晴天の霹靂  
密葬の儀が厳肅に滞り無く相済み・読経の内お棺が霊柩車に  
出棺間際に晴天俄にかき曇り一陣の風起り霰まじりの氷雨が  
降り注ぎました・合掌

# 東伏見慈洽院下の密葬、万感の思い

一般社団法人 大日本武徳会 監事  
大阪府支部 支部長表

村田 雅人

東伏見慈洽院下の密葬が一月六日、青蓮院門跡晨殿にて執り行われ、小生も参列させていただきました。大変に寒い日で同日正午奉修、式衆天台宗高僧入堂、堂内にも火の気が無く大変寒くはありましたが、皇族や名士多くの方々が参列され、次第に従い光明供が厳肅に執り行われ、最後に、喪主東伏見慈晃様より、東伏見慈洽院下のご足跡のご紹介とご挨拶がございました。宗教界における最高位にあられる一方、京都大学で文学博士の称号を得、同大学の講義も為されたという学者としての側面、ピアノを愛好された芸術的側面など多方面にわたる優れた才能に加え、一方では大変優しく暖かいお人柄で誰からも敬愛される誠に得難い大徳でございました。誠に、上求菩提下化衆生、菩薩行をそのまま実践されたお方であり、大日本武徳会総裁としても、その功績は大変気高く、誠に北辰たるよりどころでございました。因らずも元旦、身は華とともに落ちぬれども、心は香とともに飛ぶ（性霊集）、入滅されるとは、喪主様、ご親族の皆様のご悲しみや如何ばかりか、察するにあまりあるものでございます。

お見送りに際しまして、皆様門前にてお待ちしておりましたが、小

雨が僅かに降り始め、それが雪に変わる時、お見送りとなりました。曇り空を見上げると太陽が雲に隠れ、やわらかい光に包まれておりました。その時、全ての蔭が薄らぎ柔らかい光に蔽われ、誠に大日の光明決して、空しいだけでなく、生前、武徳会会報にも掲載されました慈洽様の色紙、慧日破（諸）闇（観音経）が思うかばれ、今後我々を仏化を以て冥資されるとの願いと想いを致しました。小生も無為の功德、無作の功德を積み般若心経と並ぶ大経、般若理趣経（理趣釈）真言行者の菩薩行に見習い、今後の更なる精進へと心を新たに致しました。

なお、密葬の前日に一般社団法人大日本武徳会大阪府支部を代表し、弔電を打たせて頂きましたことをご報告致します。



# 総裁東伏見慈治猊下の密葬に参列して

竹田 豊

大日本武徳会総裁東伏見慈治猊下のご冥福を心よりお祈りいたします。

平成二十六年一月一日午前四時二十五分総裁東伏見慈治猊下が逝去されました。

五日通夜、六日密葬と決定され私は六日の密葬に参列しました。青蓮院門跡・宸殿正午、式衆が入堂し天台宗の密葬儀次第により執り行われた。祭壇の両側には沢山の供花が並んでいた。読経のなか後方より冷たい風が時おり吹き抜け、それに合わせ背筋がのびる。

ご親族焼香に続き一般焼香に移る。総裁のご功績と本会における多大なるご尽力に改めて感謝とお礼を込め焼香いたしました。

密葬儀が終わり、いよいよ出棺の時刻となり総裁とのお別れです。今まで青く晴れ渡り、青蓮院門跡の楠の彼方に、太陽が照っていたが、天候が急激に崩れ雨となった。寒さも加わり雨はついにみぞれとなり、その中を紫、黄緑、朱の僧衣に朱や紺の袈裟をかけた僧侶たちの葬列が進み、霊柩は車に消え青蓮院門跡を後にした。掌を合わせてお見送りをする。先ほどまで、みぞれが降っていたが、天候は元の青天に戻っ

た。出棺に合わせたとても不思議な時空だった。突然のみぞれが降る天候の変化のように、いつ辛苦がやって来るかも知れず、また状況が厳しくても日々しっかりと自分を見つめ、新たな目標に向かい突き進めば順風もまた吹く。「突然の冷たいみぞれは慢心を正す精神への鉄槌であり、驕ること無くしっかりと地に足を着け、休む事無く日々精進し前進しなさい。」との総裁から私たちへのメッセージだと思ったのは私の独善だろうか。

この不思議な体験は心に残る貴重な財産であると私は感じました。

合掌



## 伝統武道を通じて...

一般社団法人 大日本武徳会

裏念流刀法、抜拳刀会団体長 会長 範士八段

平野

秀雄

館長 六段

川村

拳義

昨年は、『一般社団法人大日本武徳会』として記念すべき第一回大会となります春の全国武徳祭そして厳島神社、秋の平安神宮での奉納演武大会と日本が世界に誇る数々の素晴らしい舞台で、拳刀会、拳正会一門で演武させて頂きました事に、裏念流拳刀会役員一同喜びと感謝の念でいっぱいです。

また、日本古来の伝統武道（居合道・古武術・空手道）の立ち居振る舞いを始めとする様々なすばらしさとその心を後世に伝承するべく、拳刀会各師範は自身の鍛錬は勿論、『礼節を基調とする心身の鍛錬、最近の子供達に欠けていると言われがちな集中力・協調性そして仲間を思う心』を育めるよう、日々子供達と一緒に古武道・空手道を通じて本部道場並びに各道場で修練・研鑽しておる次第であります。

さて古武道のひいては日本の将来を担う子供達に目を向けてみますと、青少年の健全育成が言われて久しくなりますが、学校等でのいじめなどの青少年の心のトラブルから生じる問題が後をたたず、子供達を取り巻く環境は益々厳しい状況にあると存じます。

この様な時代にこそ我が国の歴史と文化に培われた伝統文化の一つであり、日本の宝でもある古武道そして空手道が大きな役割を担うと信じております。そして現代社会において失われつつある道徳的精神

を修復するには日本人の善き意識の根底にあり礼儀礼節を基調とした日本古来の『武士道精神』が必要不可欠であり、またその武士道精神を失う事なく持ち続ける事ができれば、自信と誇りを持って世界の中の日本としてその存在を示して行く事にも繋がると存じます。

将来を担う子供達が心身ともに健やかに成長できるように環境は、私たち地域社会と家庭、学校が協力して作っていかねばならないと存じます。またその環境作りと日本古来の伝統武道、更には武士道精神の伝承こそ我々裏念流拳刀会の理念であり各師範の信念でもあります。

最後になりましたが、一般社団法人大日本武徳会の益々のご発展と役員の方々並びに会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。



## 平安神宮奉納演武大会に参加して

日本武道空手協会 正守和道塾 雨森 夏菜子

「平安神宮にて演武会があるので、参加してみないか？」と、先生から聞いた瞬間に、ぜひ参加したいと思い、今回参加させていただくことにしました。

私は古武道の中の棒術をやっていますが、練習時間もあまり取れずに本番を迎えました。

平安神宮境内で御被いを受けてから演武することになっており、今まで参加させてもらっていたところとは違い、経験したことがなかったため、参拝中はとても心臓がドキドキしていました。

演武が始まり、私の前までにされている方たちは、私より小さな子から経験豊富な方まで、すごく上手な人で、とても立派に演武をされていて、このような人たちと同じ舞台に出て演武をできるの不安でしたが、先生が「大丈夫だよ！」と励ましてくれたので、とても安心して演武の準備ができました。

私が演武した形の名は津堅棍つゑのえんといいます。この形は私の好きな形であり演武でよく使用しています。神聖な場所なので見守ってくださいと思っていたような感じがして、不安も取り除けて演武が出来てうれしく思います。

人に感動を与えられたかどうかはわかりませんが、これからも練習

をして、また演武ができたらと思います。

今回は時間の都合で、最後までいえることができませんでしたが、棒術で立派な先輩方がいらつしゃるので、全国武徳祭や今回の古武道奉納演武大会などで見て、いろんな棒術の形の勉強をしていきたいと思っています。

今回お声を掛けてくださった上村先生、道観世先生ありがとうございました。

## 平成二十五年年度

## 平安神宮奉納演武大会にて

武学館 小六 木村 颯馬

「ちゃんと演武ができるだろうか」と、とても不安なまま、当日平安神宮に着きました。そこでは同じ流派の先輩達が待っていてくれて、どうどうとした先輩たちの姿を見て、少し気持ちが楽になりました。本番が近づいて緊張している僕に先輩が「間違えても大丈夫だよ」と優しく声をかけてくれたことで、全力で演武をすることができました。終わった後、周りから拍手をもらって本当にうれしかったです。この経験をこれからの稽古につなげたいと思います。



## 平安神宮に行つて

棚田 陽向

平安神宮に行く前、すごくドキドキしました。理由は居合がすごくうまい人の前でやると思ったら、「しっばいしたらどうしよう。」「一人でもまちがったらめっちゃ目立ってしまう。」などたくさん考えました。

本番になると、居合をひろうする前、私といっしょぐらいの子たちがじゆう道みたいなのをひろうして、しかも黒おび、茶色おびの子がたくさんいました。平安神宮に行く前より、はるかに大きいプレッシャーになりました。居合をひろうする時、何本目をするかわすれそうになりました。少しとわりを見てあわせてしまいました。後から「しっばいしてしまつた。」と思いました。でも、先生や、うまい人が「すごかつたな。」と、いってくれました。いっきにその時、プレッシャーがなくなりました。その時に平安神宮に行つてよかつたな、と思います。次に行く時はドキドキしないで、むねをはって、居合をひろうしたいです。

## 平成二十五年度 平安神宮奉納演武大会にて

武学館 中二 久保 智嗣

右腕を骨折したまま、ギブスでの参加ということで最初から「十分な技で演武ができるだろうか」という不安がありました。ただ奉納演武大会という趣旨の下、一生懸命に演武する姿を奉納しようと思ひ、自分なりに満足できる演武ができたと思ひます。大会には様々な武道の演武が披露され、始めてみる技に興味を持ちました。今回は少年部の演武がたくさんあり、これから少年部が活躍できる場が増えていくことにとてもうれしい気持ちになりました。奉納演武大会で異なる武道を見学することができ、自分達が学ぶ技とは違う世界を垣間見ることができ、本当に貴重な勉強の場となりました。



## 平安神宮奉納演武大会に参加して

修武会淡路支部 小五 大道 妃莉

私は、演武大会に参加するために、はじめて平安神宮に行きました。平安神宮では、外国の人がたくさん観光に来ていて、おどろきました。お寺や建物もたくさんあって、とてもきれいでした。

「ここです。」

と、考えたら、きんちようしてきたけど、はかまに着がえて私達の順番を、待ち、次は自分と考えたら、すぐきんちようしました。

本番では、三回まちがえてしまい、まちがえた時、すぐくあせつたけれど何もなかったようにしました。終わってから、お母さんに言ったら、

「分からなかったよ。」

と、言ってくれたのでよかったです。

ほかの方々が、しているあいだ、見学したり、友達とお寺などを見てまわりました。お寺は、古い建物なのに、近くで見ると、ものすごいはく力で、大きかったです。

歩いていると、いろいろな外国の人から、

「写真をとらせて。」

や、

「刀をぬいて見せて。」

などたくさん言われました。ちよつとうれしかったです。

また、来年も参加することができるようにもつと練習をして、上手になつてまちがえないようになつてから行きたいです。

刀をふるコツや、足の運びなどを、もつと学んで、一つ一つをていねいにできるようにしたいです。

## 平成二十五年度 平安神宮奉納演武大会にて

武学館 小四 高橋 京花

奉納演武大会に出るということを聞いた時、「失敗したらどうしよう」と思つて不安でした。でも先生や先輩たちが励ましてくれて、「やってみよう」と思いました。稽古日には毎回演武の形を三十回以上繰り返しましたが、大会の日が近づくと胸がドキドキしました。大会の日、たった一人で演武することはとても怖かったです。みんなが応援してくれたので、力を振り絞つてがんばりました。「できた」と思える演武ができ、応援してくれた皆さんに感謝しています。この日から演武することに自信が持てるようになり、これからはいろんな大会に出たいと思います。

## 平安神宮奉納古武道大会に参加して

拳正会空手道 拳志館 高一 福井 来実

拳正会空手道に入門して九年目、あこがれの黒帯をしめることが出来、そして昨年は広島県の厳島神社で演武大会に参加し、今回は有形文化財でもある平安神宮「額殿」で演武することが出来ました。館長の大西先生から演武大会の様子を聞くと、歴史的な由緒ある場所、居合、柔術、古武道など、多くの先生方の演武があるし、見学する事も武道の勉強では大切な事だよと、出場を進められました。まだまだ未熟な私にこういった機会を与えて頂いたことを感謝し、一生懸命頑張ろうと思いました。今までは型は試合で優劣を競い、演武は師範がするもので私達は見学するだけでしたが、今度は私達が演武をするのです。私にこんな大役が務まるのだろうか、不安な気持ちもありましたが四人の仲間と共に練習に励みました。それぞれが自分のペースで型をすると少しずつずれてしまうので皆で呼吸を合わせることを心掛けました。そして演武会当日、大勢の見学者今迄と違った緊張感でいっぱいです。整列 正座 黙想 正面に礼、指導者への礼、いつもの動作をしている内に気持ちが静まり落ち着いてきました。師範の号令のもと、気合を入れて型演武を行いました。いつもとは違う床の感覚や声の響き方に、とても緊張してしまいました。身体が震えて、型がちゃんとできているのか心配でした。型の最後の気合を入れた時は、

ほっとした気持ちと、ひとつの事を仲間と一緒にやり遂げたという達成感がありました。演武終了後、珍しく師範が「上手に出来たよ」と誉めてくれたのがうれしくて、そして最後の表彰式では、何と私は拳正会空手道を代表して特別参加賞を頂くことが出来ました。これから練習を続け、演武された他の先生方のように成りたいと強く思いそして空手道をやっていて良かったと思いました。

## 平安神宮奉納演武大会に参加して

拳正会空手道連盟 拳真館 小五 小屋 陽平

ぼくは、空手を小学一年生から始めて五年になります。始めた理由は、自分の身は自分で守らないといけないと思ったからです。

通っている道場は拳真館で弟の翔平といっしょに練習にがんばっています。

演武大会はぼくと、翔平と同じ道場の伊藤さん、拳有館の松本君の四人で演武をしました

最初の練習は、息があまりあわなかったけれど何回も練習するとみんなの息が合ってきて、だんだん上手になっていきました。

平安神宮は、鳥居が大きくてびっくりしました。そして赤い色できれいです。

最初は、きん張しなかったけれど、演武がするのが近づく、上手にできるかだんだんきん張してきました。待っている時は、とてもきん張したけれど、演武をしている時はきん張がほぐれて、練習通りに出来ました。

翔平は練習の時よりも上手に出来ていました。伊藤さんや松本君も練習通りに出来たのでとてもうれしかったです。

今度、また参加出来たら、もっと上手になって、みんなと演武したいです。

今の目標は黒帯になることです。黒帯になるためにもっと練習して、上手になりたいです。

## 平安神宮奉納演武会を終えて

拳正会空手道 拳志館 中一 藤中 彩光

初めに話を聞いた時は、「僕に声をかけてもらえるなんて」と言う気持ちと「僕なんかが拳正会を代表して武徳会の演武会に参加しては失礼だ」と言う気持ちがありました。

昨年の厳島神社での奉納演武に続いて二回目でしたが、厳島神社の時は手の甲を骨折してギブスをした状態での演武だったのでしっかりとできませんでした。ギブスが無ければもっとしっかりと演武ができたのには思いましたが、他の武道の人達の演武を見て自分には力不

足だと実感しました。僕が空手をはじめたのは、幼稚園の年中で四歳のときでした。未熟児で生まれたせい、友達より身体は小さく兄弟もいないので、けんかもした事ありませんでした。そんな僕に母は「男の子は強くなつて女の子を守らない」と幼稚園の友達が入門していた今の道場に通わせました。僕にとって練習のある火曜日と金曜日は嫌な日でした。館長には大きな声で怒られるし、行きたくないの、寝たふりをして、祖父にしがみついて泣いても母は休まず連れて行きました。それでも初めての大会で負けたのが悔しくて、もっと練習しようと頑張りました。小学二年の時から組手に参加しましたが弱虫の僕は、痛くて泣いてばかりいました。

やはり最初は組手をしなくてもいい方法を考えましたが母に無理やりやらされました。

でも初めて試合で勝った時は「もっと練習すればもう少し上にいけるのでは」と練習の成果を感じました。師範には「型を練習すれば組手も強くなる」と教えられました。

その為にも毎日ストレッチをして柔軟運動をしています。まだまだ力不足ですが空手を始めて八年 継続は力なりの言葉通りこれからも練習に励み、空手道を通じて技術面はもちろんですが 礼の心 精神力を鍛えていきたいと思えます。

そして一生空手を続けていきたいと思えます。この度は素晴らしい経験をさせて頂きありがとうございます。

押 忍



## 武道執行専門委員に出席して

一心無双流居合道剣心会 村上 亭

まずは理事の先生方の一方ならぬご苦勞に対し感謝申し上げます。武徳会というものが、四月の全国武徳祭と十月の平安神宮奉納演武大会の開催が、その主たる目的と理解しておりました。これは私の単なる認識不足で、参加する側から見ただけでしたが、昨年の十月と、この二月八日の委員会・社員総会に出席させて頂き、少ない理事の先生方で膨大な仕事をこなされているのを見ることが出来ました。内規の作成、高段者審査表の作成、青少年会員の育成等と東伏見総裁の逝去に対する対応等々。

一般社団法人大日本武徳会の設立と共に、その方向性を求められた武道執行専門委員会の設立共に、その方向性が求められた武道執行専門委員会の設立であったと思いますが、武道執行専門委員としての役割が、大会実行委員と準備委員、高段者審査委員会、審査委員講習会、大会検証委員講習会と定められました。色々な流派があり、他の流派を見るということは、刀の取り扱いが違うため、自分の目を鍛える必要性があります。全国武徳祭において各流派の演武を逐一細かく見る必要が有ると思います。高段者審査の審査委員の先生、大会検証委員の先生の負担は大変なものがあると思いますが、ここまでルールを引いて頂いた理事の先生方の努力に報いるためにも、武道執行専門委員は一致して一般社団法人大日本武徳会の繁栄に向かって頑張らなければなりません。

## 第四回武道執行専門委員会に出席して

日本武道空手協会 錬士 齋木 泰徳

去る二月八日第四回武道執行専門委員会に出席させていただきました。

浜田鉄心先生の迫力、説得力ある進行、そして、諸先生方の熱心な議論に感服しております。正に、日本の伝統武道を発展させるべく中樞がここにあることを実感した次第でございます。

さて、先日 武道における「黒帯」を題材としたTV・CMが目にと飛び込んできました。そのCMは、武道の宣伝といったものでなく、例えとして「黒帯」が題材となっておりました。民間資格団体のCMだったのですが、(細かい詳細は略します)、日本国内資格と国際資格の差を表現するもので、武道の「黒帯」は、国内資格であるかのようなCMでした。これは、武道をきちんと認識している者であれば、あり得ないことです。「黒帯」は世界共通であり、国内資格ではありません。CM制作関係者の方たちは、武道をよく知らないからだと思いますが、これに限らず、日本人として武道に対する認識の低下だと危機感すら感じます。



# 団体道場紹介



## 武徳和魂会・糸東流空手

一般社団法人 大日本武徳会 武徳和魂会

健全な精神と肉体に培われた青少年の育成を祈念して、父子二人から始めた空手の稽古も地域の方々の理解と情熱の御蔭で現在三〇〇余名の青少年が日々大日本武徳会の一員として熱心に修練に取り組み汗を流しています。

稽古道場は、地域を囲むように所在する四箇所の学校で、月・水・木・土、回り持ちで行っております。指導員はすべてボランティアの先生方々です。

箕面市立豊川北小学校・箕面市立豊川南小学校・吹田市立青葉山台小学校・茨木市立彩都西小学校・鏡開・初稽古は一月十二日(日)・豊川南小学校で開催一同元氣いっばいで今年の健闘を誓いました。

一般社団法人大日本武徳会、代表理事桑原兵充先生・教士七段高島伸幸先生に、お祝いの模範演武を披露して戴きました。

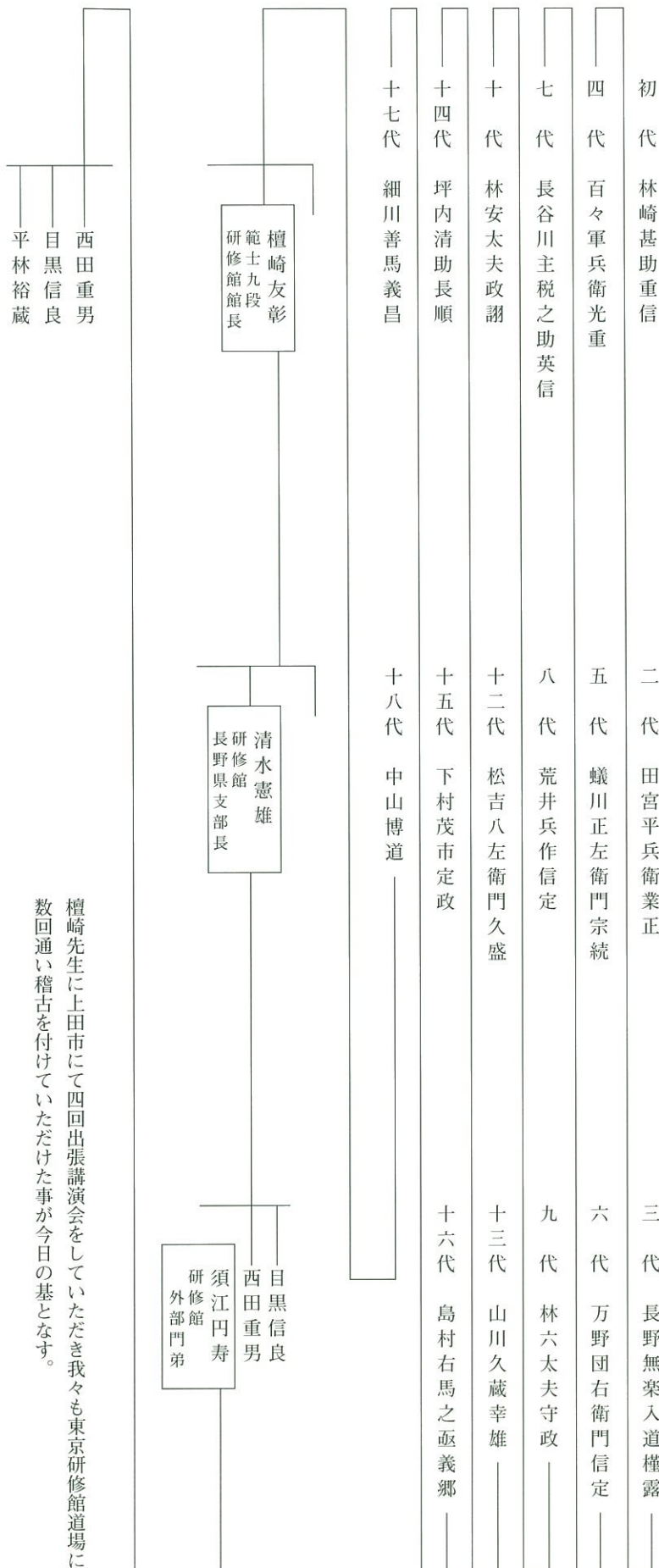


# 古武道 唯心会の紹介

夢想神伝流居合道  
唯心会派 二代目 範士

目黒 信良

## 夢想神伝流系統



檀崎先生に上田市にて四回出張講演会をしていただき我々も東京研修館道場に数回通い稽古を付けていただけた事が今日の基となす。



平成十三年一月十五日 夢想神伝流居合道（十八代中山博道・範士檀崎友彰系統尊守）

唯心会派創立 初代西田重男（平成二十一年四月六日逝去享年八十四歳）・二代目黒信良

◆唯心会派・居合の作法並に心得◆

武の道は、礼に始まり礼に終るとある如く、礼に終始することが居合道である。神の御前にありて日本刀を腰にしている真剣な、そして真摯の気持を持ち身心共に礼節そのものでなければならぬ。

流祖・恩師・先輩後輩に、そして日本刀に対し何時も尊敬・誠意・至情の念を厚くし、正しく、真心を持って修業に励む。以って立派な人格が養われ、居合道、即、処世道となるを目的となす。

◆唯心会派 技の修業◆

- 一、初伝・大森流（正座の部）十二本
- 二、中伝・長谷川英信流（立膝の部）十本
- 三、奥伝・（居業）十一本（立業）十本
- 四、組太刀・（位取り）九本
- 五、詰居合・研究
- 六、試斬・（竹 巻畳表）

特 二代目口伝居合道神事

平成二十年六月二十九日 古武道唯心会 野倉唯心館道場が、大日本武徳会公認道場に認定される。公認道場 館長・平林裕蔵

—— 道 場 訓 ——

- 1、仁、義、礼、智、信の心と涵養  
 仁・思いやり、慈しみ  
 義・道理にかなったこと  
 礼・人の踏み行うべき道  
 智・物事をよく知り、わきまえている  
 信・いつわりのない心
- 2、勝負を争はず、心を澄まし、胆を練り、自然の勝を得る  
 （三界唯一心）

—— 野 倉 唯 心 館 ——



道場は神社の境内、周りは竹林と時代劇映画の赴きであり環境に恵まれた中で日々、居合道の形稽古並びに竹を相手の試斬の修業を行なっております。



## 平成二十五年

## 一般社団法人大日本武徳会

## 大阪府支部武道研修会

## 開催さる

## 一般社団法人大日本武徳会

一般大日本武徳会大阪府支部武道研修会が平成二十五年十一月十七日(日)に大阪、住吉大社境内住吉武道館、剣道場、柔道場にて開催されました。住吉大社の神々しい雰囲気の中、まず、村田雅人支部長の開会の挨拶に始まり、一般社団法人大日本武徳会本部よりご臨席を賜りました代表理事桑原兵充先生の心のこもったご祝辞をいただきました。また、本部より、竹田豊先生、津守照代様のご臨席を賜りました。顧問辻野正勝先生におかれましてはご祝辞に加え、新島襄作「寒梅」詩吟と揮毫を賜り花を添えて頂きました。更に、住吉武道館館長より温かい励ましのご祝辞を頂きました。

さて、演武は小生の英信流祓いの儀を皮切りに、桑原兵充先生の心伝流柔術模範演武を賜りました。この度は、先生お一人で形をご

披露なさいましたが、その入神の妙技に深遠なる武道の精髓に襟を正す思いでありました。続いて一般演武の部に移り、心伝流柔術宗家小西修平先生、範士北野隆雄先生等ご一門による迫力ある立派な演武が披露されました。次に、居合道の部に移り、始めに小生、大誠会の無双直伝英信流の演武を行いました。今回は、大小詰、大小立詰、外之物体術について失伝した物を除き、確実性の高い技のみをご披露致しました。次に、虚心流居合剣法ならびに組太刀を山本楠城先生、山本勇先生等に御演武頂きました。いつもながら格調の高い居合でございました。続いて、神伝円心流据物斬剣法を森内一蔵先生ご一門に御演武頂きました。神事を含め誠に迫力があり立派でございました。また、今回は若手による

空手道の演武も行われました。真剣な演武で今後の発展が期待されます。また、無双直伝英信流居合を尾ノ上克己先生、伊佐子先生ご夫婦が演武なさいました。息のあった居合で誠に結構でございました。続いて、神田派虚心流居合が佐野晃一先生により披露されました。神田穂風先生の剣風よろしく、全体に柔らかくすばらしい居合でした。最後に、無双流居合剣術を太田淳一先生ならびにご一門に演武頂きました。先生の演武はすでに円境に入られ誠に立派でございますが、いつも多数のお弟子さんにご参加頂き、その度に皆様の

技量が進んでおり、そのご指導宜しきを実感致しました。山本楠城先生に立派な納めの儀を行って頂き、演武を終了致しました。また、竹田豊先生に全体の講評を頂きました。

武道研修会に引き続き懇親会を開催致しました。支部長により簡単な一般社団法人としての方針が述べられ、和やかな雰囲気の中、武道研修会を終了致しました。大日本武徳会の更なる発展と各位の武徳に栄光あらんことを祈念申し上げます。乱筆乱文ご容赦下さいませ

(文責 村田雅人)



## 一般社団法人大日本武徳会としての 未来的展望と課題

濱田 鉄心

本会が積年の願望であった法人化を達成して一年数カ月が経過した。武徳の根本が文武の両輪であるという概念は、本会の歴史的な観点から育まれてきたゆるぎない伝統である。その両輪とは正に法人化した組織の運営に関する輪と武道活動の輪が一体となって発揮される堅忍不拔の指導力にかかっていた。本会理事会は昨年十七回に亘り会合を重ね、社団法人法と定款に則り新しく刷新された内規にもとづいて多くの議題を討議し適切な組織政策のポリシーを実施してきた。本年度二月八日第一回定時社員総会における議題の中で本会が掲げる主要目的が明らかにされ、平成二十五年度の事業報告、収支決算報告が承認され、社員総会全員一致で平成二十六年度の総裁追悼記念事業と後援協賛事業並びに収支予算表が承認された。平成二十四年度に法人化が達成された後、本会の伝統武道活動の発展と促進を目的として武道執行専門委員会が設立された。これは画期的な試みであって本会が歴史的に誇っていた往年の武道専門学校の再来を期待するものであった。我が国において武道界が森羅万象の状態で存在している中、大日本武徳会の優秀な指導者が集結し、その叡智と豊富な体験をもとに独自のリーダーシップが発揮される事は、武道執行専門委員会の大きな能動的課題であると思われる。この委員会が本会の目指す伝統武道の保存

継承に果たす役割と責任は余りにも重大である事は言うまでもない。

法人化した組織の運営と武道活動の運営はこれからも多くの先生方の意見を参考にして進めていかなければならない。さらなる発展の為に改善されなければならない点は山とあることは間違いない。その為にさらに理事会のみならず全てのリーダーシップに貢献する人材を充実させなければならぬ。新しい専門委員の一段と積極的な参加が期待されていることも確かである。即ち、本会のさらなる発展は何よりも優秀で献身的な人材の発掘にかかっている。基本的に武徳会の城は全て人であってこの献身的な人達によって現在と未来は構築されいくと確信する。

昨年から以下の未来的目標が理事会において協議されてきた。これ等は本年度実現に向けて最大限の努力をしなければならない。会員全員が一丸となって対処すれば必ず達成できると確信したい。

- 一、平成二十六年度の総会員数は一〇〇〇人とする事。会員を増やすことは本会の最大の課題である。
- 二、平成二十六年度の段位称号審査受審者をさらに奨励し大きく増やす。武道執行専門委員会の指導的活躍を期待する。
- 三、平成二十六年青少年全国武徳祭に前回よりさらに青少年参加者を募り、大きく盛り上げる。目標は全国武徳祭と同等もしくはそれ以上の規模とする。武道教育を通じて青少年育成にはさらに力を入れる。
- 四、平成二十六年度の収支予算は二十五年度につづいて健全な黒字運営として計上し、世界大会の準備資金を着実に設定する。

- 五. 本会主催事業に関する運営をさらに効率よく刷新する。大会実行委員会の活躍がさらに期待される。
- 六. 本会協賛事業、共催事業に関して出来るだけの協力とサポートをする。
- 七. 法人組織運営の発展の為、適切な人材の発掘と確保をする。
- 八. 会員サービスを充実させ、会報・ホームページ等による広報活動のみならず、メディアを通じた渉外活動も促進する。
- 九. 国際的なイベントや事業に関してさらに内外に理解を広める。
- 十. 長期的な事業プランを設定し、戦略的に対応していく。寄付活動も促進する。

これらの課題を考えると本会の未来的展望は非常に明るい。法人化した事により、新しいエネルギーと活力で全面的に前向きに発展している事は確かである。

国内外において現在日本国に対する関心は非常に高い。確かにアベノミクスの経済指標や医学界におけるIPS細胞研究などの新発見などは世界中の国々が高い関心を持つところだが、それよりも彼らの一番の関心事は日本の日本人による日本の為の精神文化を我々がどうするかである。武道を志す人間にとってこれほど厳しい指摘はない。現在も未来も社会学的ダーウィン主義の自然淘汰説はいかなる国家や組織にも該当される。もし我々がそれに甘んじてその淘汰を許してしまふのであれば、崩壊の憂き目にあう事は間違いない。時の流れや時代に適応するだけでなく、自ら変革していく再生創造の力がなければ、活性化は見いだせない。その意味で今は御逝去された総裁が残された襲古還新の精神を再度顕彰し、ここから始まるとして第一歩を踏み出

した一般社団法人大日本武徳会の確固たる原点に、今後いかなる時にも常に戻る必要があると思われる。

## 被災地復興を願い奉納演武

英信館 桶田 正信

東日本大震災から、間もなく三年を経過しようとしています。

直後の三月二十七日、我英信館道場で被災地支援プロジェクトの結団式を行い三月三十日物資の搬送第一便が岩手県釜石市、大槌町へスタートして今日迄八十便を迎える事が出来ました。当初より携わって下さったボランティアさんは四〇〇〇人を超え、お届けした物資も一五、〇〇〇箱を超え、支援の輪も更に大きく広げる事が出来ました。

二年目には、物資の搬送に加え、自立支援の為に被災地の特産品を販売する物産店をオープンし、更に三年目に

